

# H30年度 第2回学校評議員会の実施報告書

---

学校名 飛驒古城特別支援学校

学校長 鈴木 肇子

所在地 飛驒市古川町片原町8番127

電話 0577-73-3600

---

## 1 会議の名称

岐阜県立飛驒古城特別支援学校評議員会

## 2 会議の構成

### ◆学校評議員

中屋 正利	地域代表（事業主・青龍会会長）
大谷 吉憲	地域代表（殿町20区区長）
藤田 計人	飛驒慈光会古城山ゆり園園長
松井 瑛子	地域代表
井本 要次	P T A会長

### ◆飛驒古城特別支援学校

鈴木 肇子	校長
澤田 秀俊	教頭
坂垣内 徹	事務長
長瀬 朋彦	小中部主事
石原 元子	教務主任
清水 学	進路指導主事（作業主任）

## 3 会議の目的

学校運営等について地域住民や保護者等から幅広く意見を求め、充実した教育活動を展開するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。

## 4 会議の開催

日 時：平成30年11月27日（火）午前11時20分～午後0時20分

場 所：飛驒古城特別支援学校 多目的室及び各教室

出席者：委員4人 学校職員6人

欠席者：藤田計人 飛驒慈光会古城山ゆり園園長

## 5 会議の概要

### (1) 校長挨拶

当校は6年目を迎え、様々な面を変えていかなければいけないと考えている。例えば、学校祭については、親しまれる愛称を付けたり、リハーサルを一般公開したりしている。より良く変わっていくためにも、本日は学校運営に関して忌憚のないご意見をいただきたい。

### (2) ひだまり祭（学校祭）リハーサルを参観しての意見等

意見1：高等部のみの参観であった。モニターを有効的に使用したり、ダンスでは流行を取り入れた振付でダンスをしたり、凝っている演出があったりと見所があり感動した。本番まで参観を取っておきたかった位である。

意見2：太鼓の演奏から参観した。小中学部、高等部と状態に合わせたグルーピングで、一人一人が自信をもって演奏している表情が良かった。学部ごとの発達段階に応じて、一人一人が活躍できる場面を設定しており、ステージに上がれない子への配慮もあった。

意見3：児童生徒一人一人の障がいに応じた役割があり良かった。高等部生徒は、長いセリフを覚えて演技し、すばらしかった。

意見4：一人一人に対して役割があり、配慮もされており良いと思う。今年度は完成度が高く、本番当日が楽しみである。

### (3) 今年度の教育活動について

教頭により、児童生徒の取組及び教職員の取組について説明した。特に小・中・高校や地域との交流活動、教職員による児童生徒理解・支援や専門性の向上についての観点から説明した。

### (4) 学校評価アンケートの結果について

学校評価アンケートについて教頭により説明

#### ①生徒によるアンケート結果について

- ・生徒アンケートについては、回答欄のA欄からE欄に順番に丸を付けた生徒がいる。
- ・昨年度との比較では、15項目のうち12項目で「わからない」の回答が減り、その分肯定的な回答が増えている。
- ・13「私は、学校へ行くのが楽しい」の問いには、4人が「あまりあてはまらない」と回答した。

## ②保護者・学校評議員によるアンケート結果について

- ・全ての項目で肯定的な回答が70%以上であり、2項目以外は肯定的な回答が80%以上であった。
- ・24「学校では、体罰の防止に努めている」と25「学校ではいじめや差別を許さず、厳しく対応している」の2つは「わからない」との回答が多く、肯定的な回答が70%以上80%未満であった。
- ・11「学校は、進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行なっている」が、昨年度に比べ「わからない」の回答が減り、その分「あてはまる」の肯定的な回答が増えた。
- ・一方、5「学校は、保護者（地域）が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である」、8「学校は、自校の教育活動に関する自己評価を保護者（地域）へわかりやすく伝えている」、11「学校は、進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行なっている」、12「学校の先生と児童生徒あるいは保護者との懇談が十分に実施されている」、14「学校の雰囲気がよく、教職員は協力し合って生き生きとしている」、18「学校の先生は、専門的な知識が豊かで教師としての資質を身につけている」は複数の保護者から否定的な回答を得た。

意見1：生徒アンケートNo.9の「Cあまりあてはまらない」に1人いるのが気になった。実態が認められる場合は無くすよう対応してほしい。

全体的にA、Bが多く良い結果だと思うが、これに満足することなく、頑張してほしい。

教頭：生徒アンケートNo.9については、実態は認められなかった。この対象生徒のアンケートが規則的に丸を付けられているものだった。

意見2：教育目標に向けて実践していると思う。お子さんが大きくなるにつれて、保護者も本人も悩み事や心配事が増え、卒業後となると保護者の出番が多くなると思う。その時のためにも保護者は、在学中から積極的に行事に参加したり、学んだりすべきである。学校は保護者への動機づけを仕組むとよい。他校のアンケートに「あなたは親として積極的に行事に参加していますか」「あなたは親として学んでいますか」という項目があり、なるほどと思った。

意見3：アンケート結果には、肯定的な意見が多いが、否定的な意見もある。否定的な意見の内容が具体的にわかると対応しやすいのではないか。C～Eを選んだ場合に記入できる欄があるとよい。保護者と学校がもっとコミュニケーションが取れるとよい。

教頭：アンケートには自由記述欄があり、いくつかご意見をいただいている。

意見4：アンケートで保護者から7～8割 A 評価をいただいているということは、学校教育が認められていると思う。私も教育方針に共感し支援させてもらっている。

設問に対して回答が難しいものがある。例えばNo.24である。

教頭：情報発信の仕方を考えていきたい。

No.24については、いじめ防止対策検討会議の開催や高等部の劇発表脚本に盛り込むなどして取り組んでいる。

清水：昨年度のアンケートで「進路に関する情報提供」についてわかりにくいという意見をいただいた。今年度は、進路通信の発行や懇談に同席して保護者とコミュニケーションをとるようにしている。

石原：アンケートNo.18の専門性の向上については、職員の研修に力を入れており、昨年から一人一授業を他の職員に公開し、有効点や改善点を話し合い授業力の向上を目指している。

坂垣内：事務部として日々の学校の様子を見てみると、教職員は一人一人に合った教育に取り組んでいる。

施設設備の面でも気が付かれたことがあれば意見をいただきたい。

長瀬：アンケートでは肯定的な意見が多かったが、否定的な意見が少しある。小さな意見を大切に改善していきたい。

## (5) 働き方改革について

教頭より説明

働き方改革は単に働く時間を短くすることではなく、どう働くかを考えていくことが必要と考えている。さらに信頼され魅力ある学校を目指して、研修会や資質向上委員会等で検討していきたい。

意見1：時間外勤務時間が減ればよいということではないと思う。難しい問題ではある。

意見2：今年度から勤務時間外が留守番電話対応となった。当初は電話がつながらず戸惑いを感じた。残業時間は、出来ることなら少ない方が理想と思う。

意見3：年度初めはどうしても行事や始業準備で残業時間が増加してしまうであろう。生徒さんに関わることであるため仕方がない。難しい問題である。

意見4：難しい課題である。学校の残業時間が少なくなっても自宅へ持ち帰っては解決にならない。また、職員が子どもに対して高すぎる目標をもちすぎるとあまりよくない。子どもの状態の少し上の姿を意識するとよい。

(6) 平成30年度卒業生の進路について

清水より中学部及び高等部3年生の進路状況について説明

(7) 平成31年度児童生徒数及び学級数について

石原より来年度の児童生徒数と学級数の見込みについて説明

(8) その他

①高等部作業製品価格検討について

清水より新製品「おひな様 大」について実物を示しながら説明

おひな様 小(既製品) 台付 500円 人形のみ300円

おひな様 大(新製品) 台付1,000円 人形のみ800円

⇒審議の結果、適正価格であると認める。

②今後の予定について

- ・第2回学校評議員会記録の確認
- ・平成31年度の学校評議員

6 会議のまとめ

ひだまり祭のリハーサルを参観していただき、児童生徒がもてる力を発揮して取り組んでいたこと、一人一人に対する配慮がなされていたことを評価していただいた。作業学習の新製品の価格について妥当であることを承認していただいた。

また、学校評価アンケートの結果や働き方改革についてご意見やご提言をいただいた。これらを学校経営に生かしていきたい。